

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 平成29年度課題別研修 英語圏サブサハラアフリカ「理科授業評価改善」

(英文) Improvement of Lesson Evaluation in Science for English-Speaking Sub-Saharan African Countries

(2) 研修期間 平成29年5月29日～平成28年6月23日

(3) 研修員数 19人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー 小澤 大成

2. 案件目標（アウトカム）と単元目標（アウトプット）の達成度

(1) 案件目標（アウトカム）

案件目標：

研修員が「よい（効果的な）理科授業」に必要な要素を特定することができる。また、その要素に基づいて授業改善のための助言ができる。

指標：

研修員が作成した模擬授業案，エンドラインサーベイにおいて実施する「ある理科授業への助言」，研修員が本邦研修終了時に提出する改善計画案に基づき評価する。

達成度：模擬授業案に「よい理科授業」に必要な要素が含まれているか，「ある理科授業への助言」にその要素が反映しているかを評価する。また改善計画案がチェックシートにより一定レベルに達成しているか確認される。

(2) 単元目標（アウトプット）

単元目標①：

日本の理科授業の現状と評価方法を知り，「よい理科授業」の観点を理解することができる。

指標：

研修員が研修中に作成した模擬授業案の中に学んだ観点が含まれているか，4段階評価でB（やや優れている）以上。

単元目標②：

「よい理科教育」を理解し，自国で入手可能な素材で教材を開発することができる。

指標：

研修員が研修中に作成した模擬授業案の中で示された教材に学んだ観点が含まれているか，4段階評価でB（やや優れている）以上。

単元目標③：

「よい理科授業」の観点に基づき、授業を評価することができる。

指標：

研修員に対しエンドラインサーベイで実施した「ある理科授業への助言」に関し、4段階評価でB（やや優れている）以上。

単元目標④：

「よい理科授業」の観点に基づき、理科授業の実践および評価ができる。

指標：

研修員が作成した模擬授業案を評価し、4段階評価でB（やや優れている）以上。

単元目標⑤：

自国の所属先での理科授業改善を目指す研修実施に向けたアクションプランを作成する。

指標：

研修員が作成したアクションプランを評価し、4段階評価でB（やや優れている）以上。